

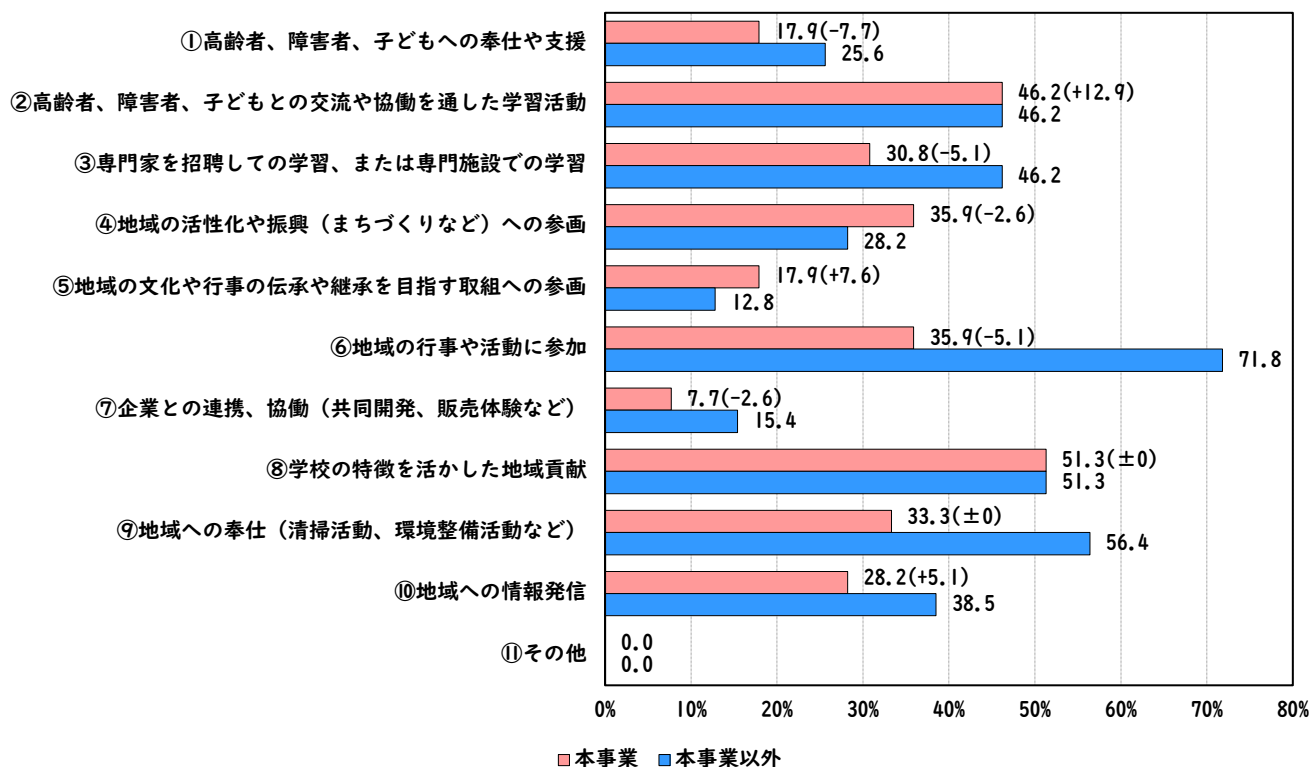
令和6年度 県立学校における「地域と共にある学校づくり」に関する実態調査の結果

以下の数値は、それぞれ該当する旨の回答をした学校（39校中）の割合である。また、グラフの（ ）内の数値は令和5年度に実施した「『県立学校による地域との協働推進事業』（地域と共にある学校づくり）アンケート」と比較した値である。

- Ⅰ. 「県立学校による地域との協働推進事業で実施している地域学校協働活動（以降「本事業」）」及び「県立学校による地域との協働推進事業以外で実施している地域学校協働活動」（以降「本事業以外」）において、どのような取組をしましたか。（複数回答）

	本事業		本事業以外
	R 6	R 5	R 6
① 高齢者、障害者、子どもへの奉仕や支援	17.9%	25.6%	25.6%
② 高齢者、障害者、子どもとの交流や協働を通じた学習活動	46.2%	33.3%	46.2%
③ 専門家等を招聘しての学習、または専門施設での学習	30.8%	35.9%	46.2%
④ 地域の活性化や振興（まちづくりなど）への参画	35.9%	38.5%	28.2%
⑤ 地域の文化や行事の伝承や継承を目指す取組への参画	17.9%	10.3%	12.8%
⑥ 地域の行事や活動に参加	35.9%	41.0%	71.8%
⑦ 企業との連携、協働（共同開発、販売体験など）	7.7%	10.3%	15.4%
⑧ 学校の特徴を活用した地域貢献	51.3%	51.3%	51.3%
⑨ 地域への奉仕（清掃活動、環境整備活動など）	33.3%	33.3%	56.4%
⑩ 地域への情報発信	28.2%	23.1%	38.5%
⑪ その他	0.0%	2.6%	0.0%

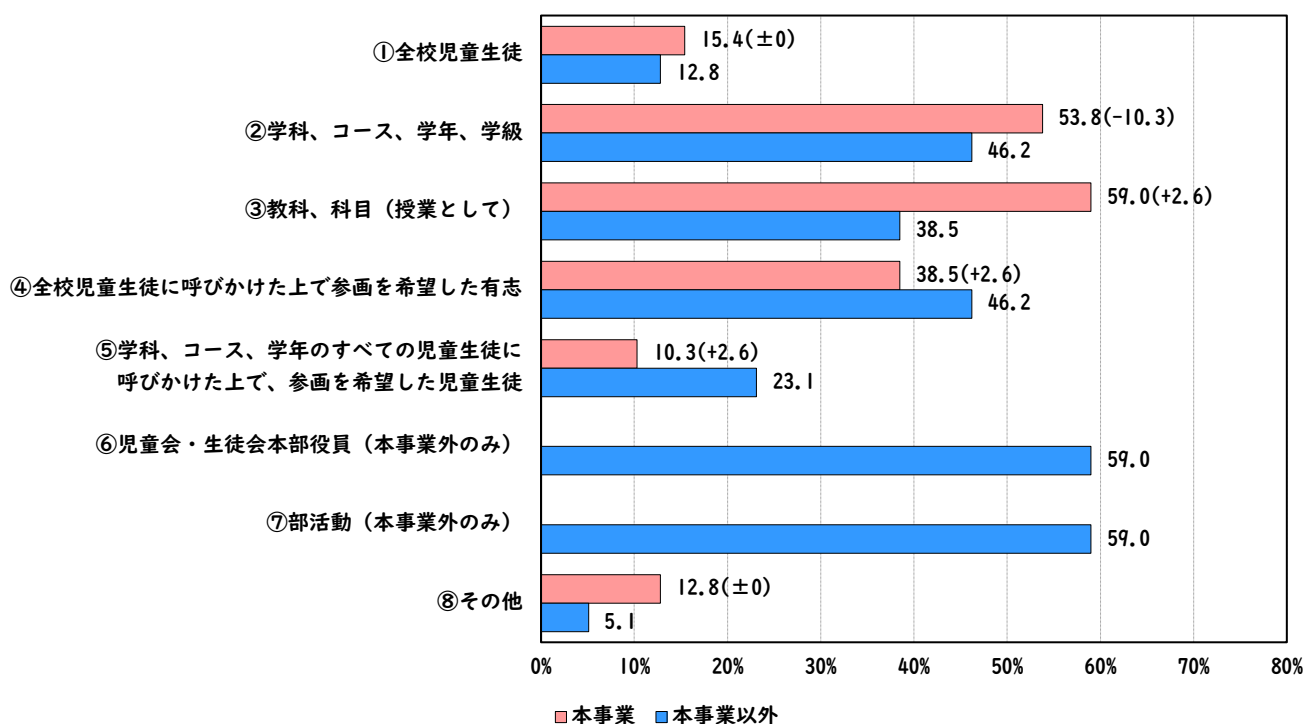
本事業では、「⑧学校の特徴を活かした地域貢献 51.3%、②高齢者、障害者、子どもとの交流や協働を通じた学習活動 46.2%」をはじめとした様々な取組が展開されている。また、本事業以外でも、「⑥地域の行事や活動に参加 71.8%、⑨地域への奉仕（清掃活動、環境整備活動など） 56.4%、⑧学校の特徴を活かした地域貢献 51.3%」といった多くの取組が行われている。



2. 「本事業」及び「本事業以外」の取組に関わっている児童生徒の立場は、次のどれに当たりますか。（複数回答）

	本事業		本事業以外
	R 6	R 5	R 6
① 全校生徒	15.4%	15.4%	12.8%
② 学科、コース、学年、学級	53.8%	64.1%	46.2%
③ 教科、科目（授業として）	59.0%	56.4%	38.5%
④ 全校生徒に呼びかけた上で参画を希望した生徒	38.5%	35.9%	46.2%
⑤ 学科、コース、学年すべての生徒に呼びかけた上で、参画を希望した生徒	10.3%	7.7%	23.1%
⑥ 児童会・生徒会本部役員（本事業以外のみ）			59.0%
⑦ 部活動（本事業以外のみ）			59.0%
⑧ その他	12.8%	12.8%	5.1%

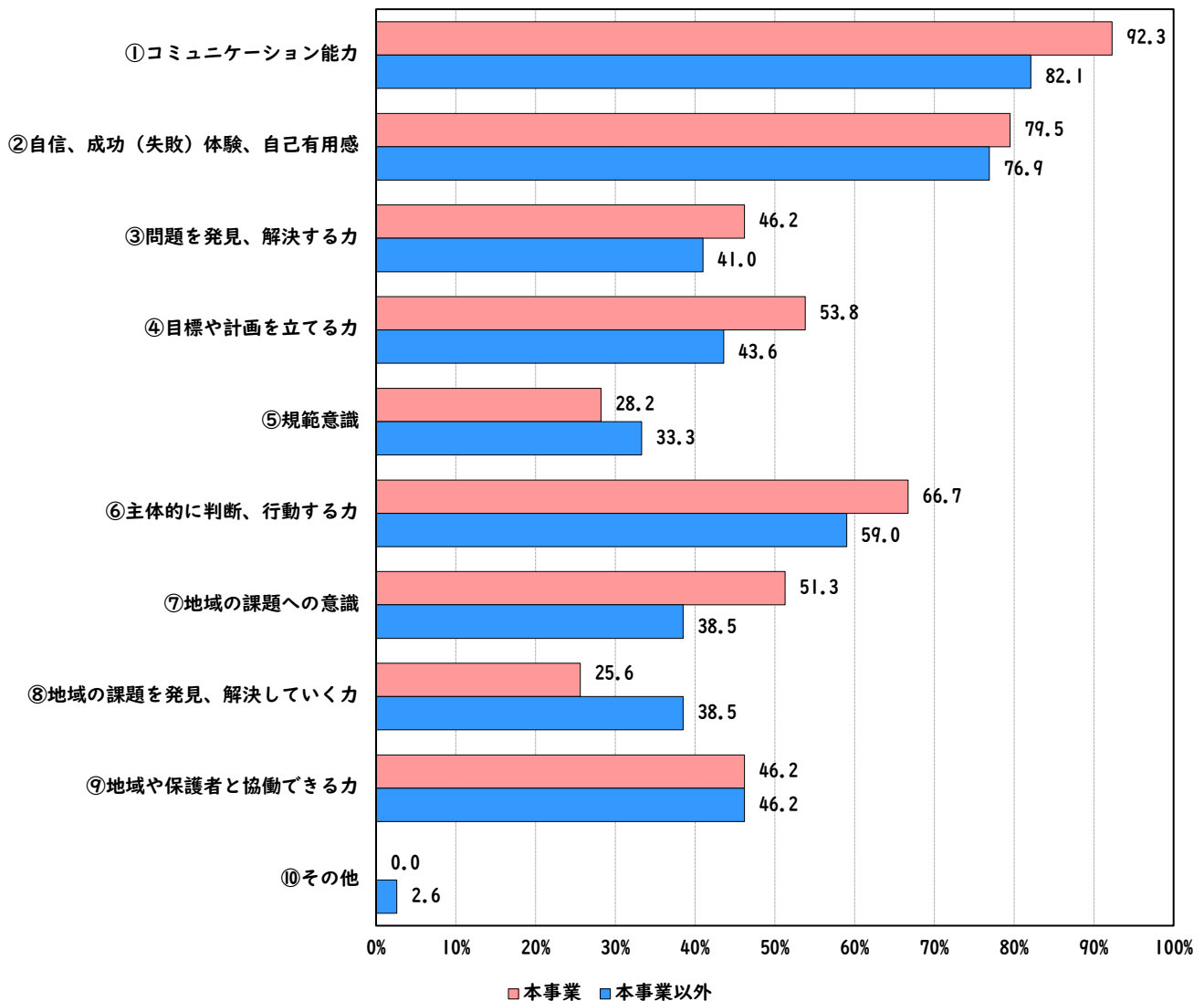
本事業は、教育課程を介した取組に対して予算を令達しており、「③教科、科目（授業として）59.0%、②学科、コース、学年、学級53.8%」で行う学校が多い。しかし、「②学科、コース、学年、学級」では前年度比10.3ポイント減少している。一方、本事業以外では、「⑥児童会・生徒会本部役員59.0%、⑦部活動59.0%」で行う学校が多く、教育課程外の活動が主流となっている。



3. 「本事業」及び「本事業以外」を通して、児童生徒にどのような力や意識が身に付きましたか。（複数回答）

	本事業	本事業以外
① コミュニケーション能力	92.3%	82.1%
② 自信、成功(失敗)体験、自己有用感	79.5%	76.9%
③ 問題を発見、解決する力	46.2%	41.0%
④ 目標や計画を立てる力	53.8%	43.6%
⑤ 規範意識	28.2%	33.3%
⑥ 主体的に判断、行動する力	66.7%	59.0%
⑦ 地域の課題への意識	51.3%	38.5%
⑧ 地域の課題を発見、解決していく力	25.6%	38.5%
⑨ 地域や保護者と協働できる力	46.2%	46.2%
⑩ その他	0.0%	2.6%

本事業と本事業以外を通して、児童生徒に「①コミュニケーション能力〈本事業：92.3%, 本事業以外：82.1%〉、②自信、成功（失敗）体験、自己有用感〈本事業：79.5%, 本事業以外：76.9%〉、⑥主体的に判断、行動する力〈本事業：79.5%, 本事業以外：76.9%〉」が身に付いたと回答した学校が多い。

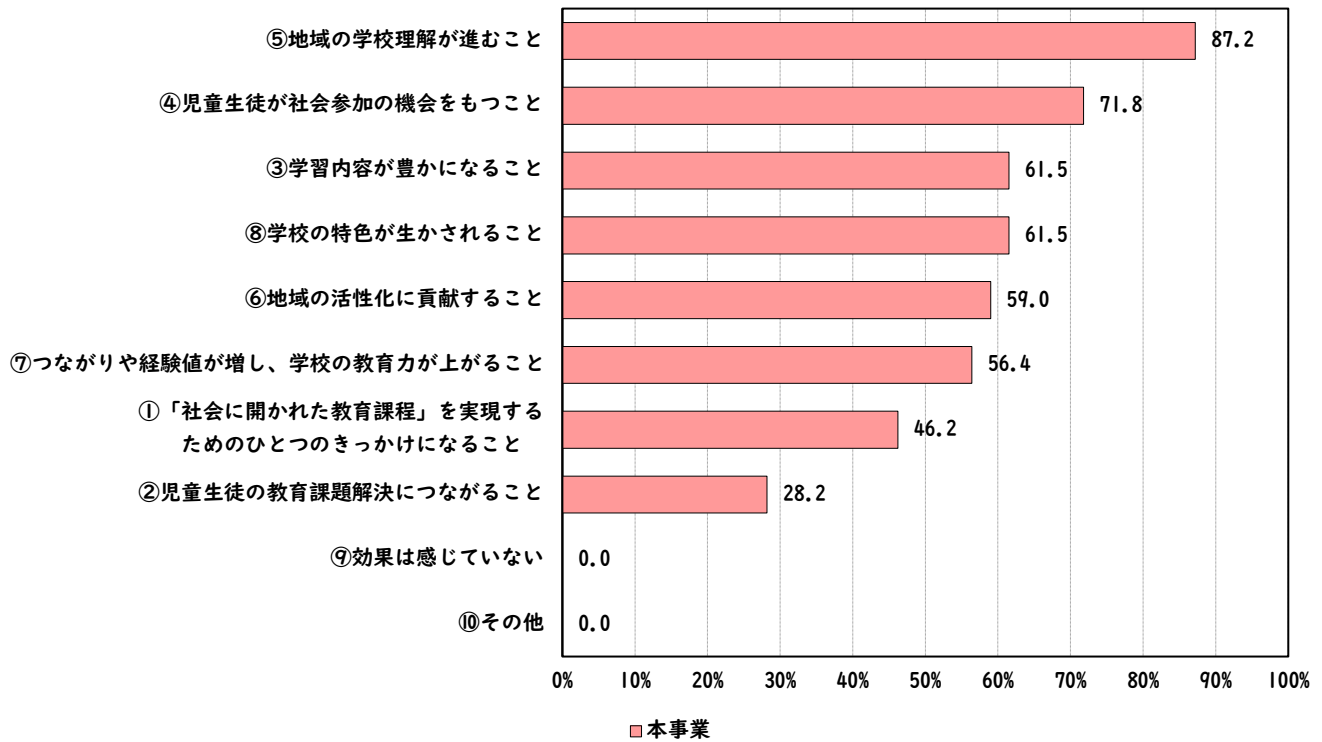


4. 「本事業」を実施したことにより、学校にどのような効果がありましたか。（複数回答）

① 「社会に開かれた教育課程」を実現するためのひとつのきっかけになること	46.2%
② 児童生徒の教育課題解決につながること	28.2%
③ 学習内容が豊かになること	61.5%
④ 児童生徒が社会参加の機会をもつこと	71.8%
⑤ 地域の学校理解が進むこと	87.2%
⑥ 地域の活性化に貢献すること	59.0%
⑦ つながりや経験値が増し、学校の教育力が上がること	56.4%
⑧ 学校の特色が生かされること	61.5%
⑨ 効果は感じていない	0.0%
⑩ その他	0.0%

本事業を実施したことにより、学校は「⑤地域の学校理解が進むこと 87.2%、④児童生徒が社会参加の機会をもつこと 71.8%」をはじめとした様々な効果を実感している。

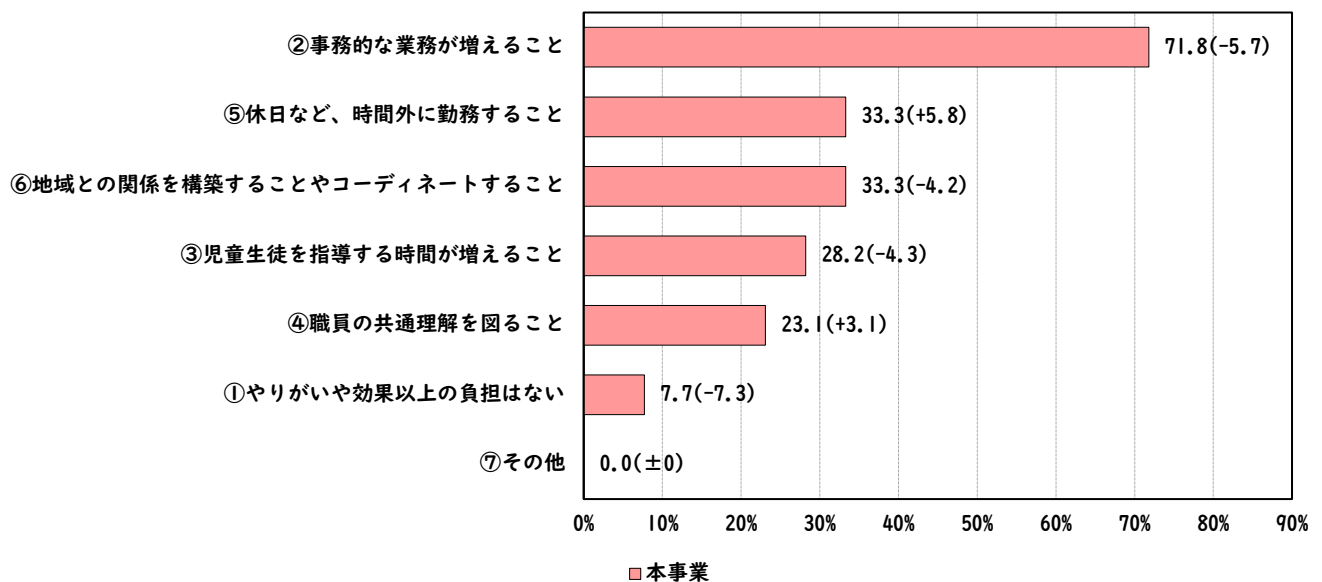
一方で、「①「社会に開かれた教育課程」を実現するためのひとつのきっかけになること 46.2%、②児童生徒の教育課題解決につながること 28.2%」について効果を感じた学校が半数に満たない。



5. 「本事業」のやりがいや効果以上の負担があるとすれば、それは何であると思いますか。(複数回答)

	R 6	R 5
① やりがいや効果以上の負担はない	7.7%	15.0%
② 事務的な業務が増えること	71.8%	77.5%
③ 生徒を指導する時間が増えること	28.2%	32.5%
④ 職員の共通理解を図ること	23.1%	20.0%
⑤ 休日など、時間外に勤務すること	33.3%	27.5%
⑥ 地域との関係構築（維持）やコーディネート	33.3%	37.5%
⑦ その他	0.0%	0.0%

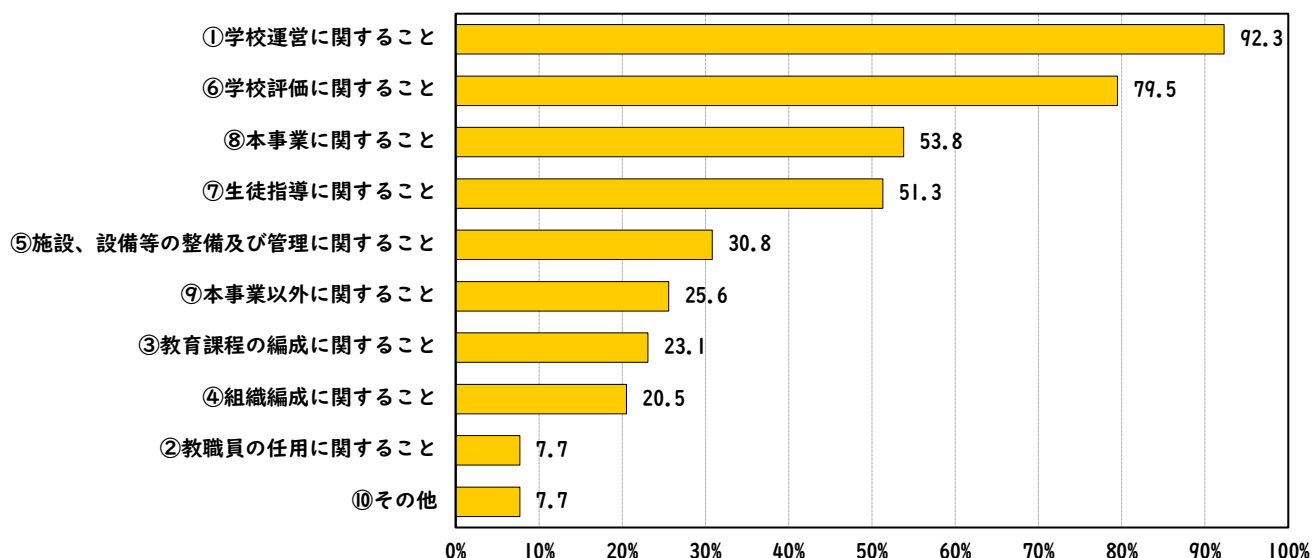
昨年度より 5.7 ポイント減少はしているが、学校が最も負担感を感じているのは、「②事務的な業務が増えること 71.8%」である。また、「⑤休日など、時間外に勤務すること 33.3%」にも負担感を感じており、昨年度より 5.8 ポイント増加している。



6. 学校運営協議会において、児童生徒の現状を基にした「育てたい子ども像」や「目指すべき教育のビジョン」を設定するために、どのような内容を協議していますか。（複数回答）

① 学校運営に関すること	92.3%
② 教職員の任用に関すること	7.7%
③ 教育課程の編成に関すること	23.1%
④ 組織編成に関すること	20.5%
⑤ 施設、設備等の整備及び管理に関すること	30.8%
⑥ 学校評価に関すること	79.5%
⑦ 生徒指導に関すること	51.3%
⑧ 本事業に関すること	53.8%
⑨ 本事業以外に関すること	25.6%
⑩ その他	7.7%

学校運営協議会では、「①学校運営に関すること 92.3%、⑥学校評価に関すること 79.5%」をはじめとする様々な協議がされている。特に、「⑧本事業に関すること 53.8%」については、半数以上の学校運営協議会で協議されている。その他としては、「防災や安全等について」などが協議されている。

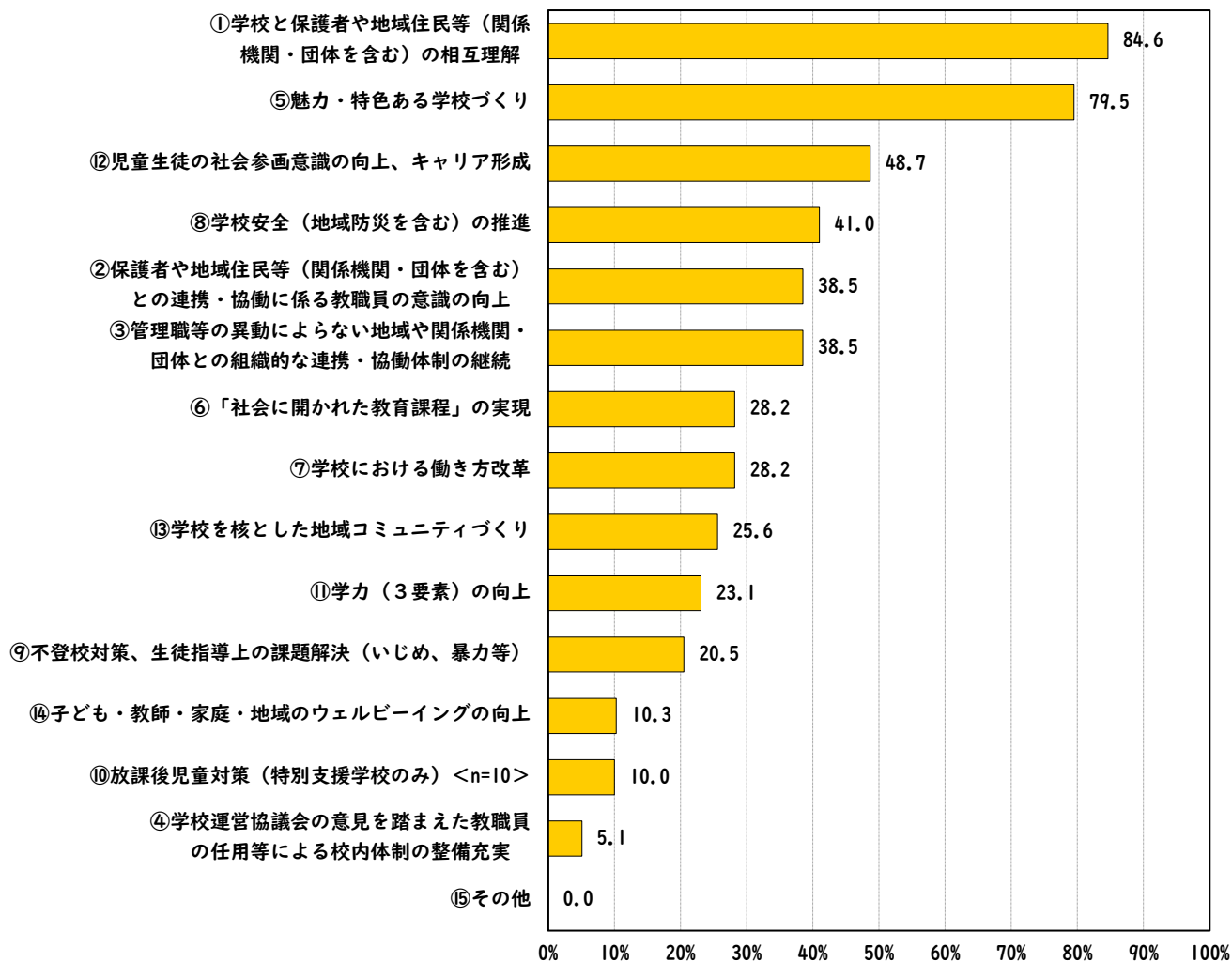


7. 6の内容を協議し、地域学校協働活動を実施することによって、進んだ取組や上がった成果はありますか。（複数回答）

① 学校と保護者や地域住民等（関係機関・団体を含む）の相互理解	84.6%
② 保護者や地域住民等（関係機関・団体を含む）との連携・協働に係る教職員の意識の向上	38.5%
③ 管理職等の異動によらない地域や関係機関・団体との組織的な連携・協働体制の継続	38.5%
④ 学校運営協議会の意見を踏まえた教職員の任用等による校内体制の整備充実	5.1%
⑤ 魅力・特色ある学校づくり	79.5%
⑥ 「社会に開かれた教育課程」の実現	28.2%
⑦ 学校における働き方改革	28.2%
⑧ 学校安全（地域防災を含む）の推進	41.0%
⑨ 不登校対策、生徒指導上の課題解決（いじめ、暴力等）	20.5%
⑩ 放課後児童対策（特別支援学校10校のみの回答）	10.0%
⑪ 学力（3要素）の向上	23.1%
⑫ 児童生徒の社会参画意識の向上、キャリア形成	48.7%
⑬ 学校を核とした地域コミュニティづくり	25.6%
⑭ 子ども・教師・家庭・地域のウェルビーイングの向上	10.3%
⑮ その他	0.0%

学校運営協議会において、児童生徒の現状を基にした「育てたい子ども像」や「目指すべき教育のビジョン」を設定し、地域学校協働活動を実施することによって、「①学校と保護者や地域住民等（関係機関・団体を含む）の相互理解 84.6%、⑤魅力・特色ある学校づくり 79.5%」が進展したと感じている学校が半数以上である。

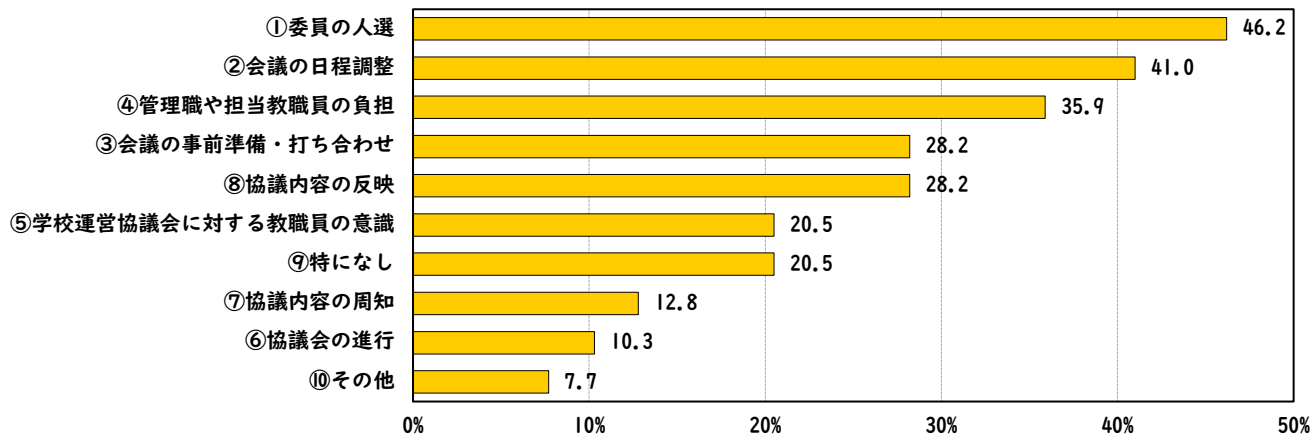
一方で、「⑥『社会に開かれた教育課程』の実現 28.2%」については、進展したと感じている学校は半数に満たない。



8. 学校運営協議会を運営する上で、課題等がありますか。（複数回答）

① 委員の人選	46.2%
② 会議の日程調整	41.0%
③ 会議の事前準備・打ち合わせ	28.2%
④ 管理職や担当教職員の負担	35.9%
⑤ 学校運営協議会に対する教職員の意識	20.5%
⑥ 協議会の進行	10.3%
⑦ 協議内容の周知	12.8%
⑧ 協議内容の反映	28.2%
⑨ 特になし	20.5%
⑩ その他	7.7%

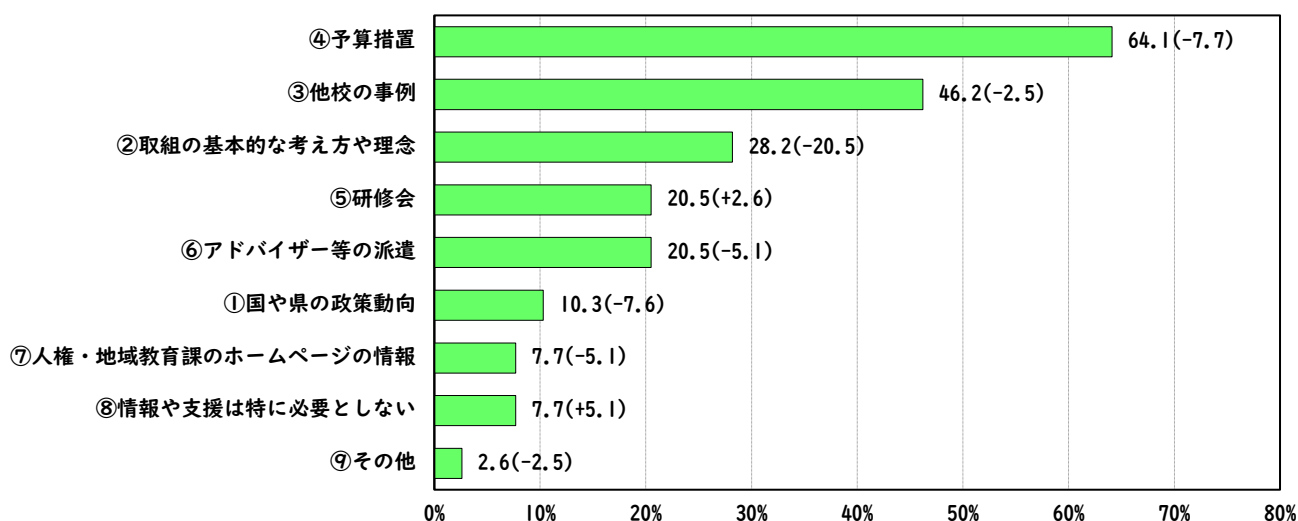
学校運営協議会を運営する上で、「①委員の人選 46.2%、②会議の日程調整 41.0%、④管理職や担当教職員の負担 35.9%」に課題等を感じている学校が多い。その他としては、「開催回数の増加」、「手続き全般」、「委員報酬の向上」等を課題等として感じている学校もある。



9. 貴校において、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と地域学校協働活動を一体的に実施し、「地域と共にある学校づくり」を一層推進するために必要とする情報や支援は何であると考えますか。（複数回答）

	R 6	R 5
① 国や県の政策動向	10.3%	17.9%
② 取組の基本的な考え方や理念	28.2%	48.7%
③ 他校の事例	46.2%	48.7%
④ 予算措置	64.1%	71.8%
⑤ 研修会	20.5%	17.9%
⑥ アドバイザー等の派遣	20.5%	25.6%
⑦ 人権・地域教育課のホームページ情報	7.7%	12.8%
⑧ 情報や支援は特に必要としない	7.7%	2.6%
⑨ その他	2.6%	5.1%

多くの学校が「④予算措置 64.1%、③他校の事例 46.2%」を必要だと感じている。また、その他としては、「手続きの簡素化」が必要だと感じている学校もある。



「本事業」に参加、参画した生徒の感想（一部抜粋）

- ①面白そうだったから。
- ②普段話さない人と話す力や人の意見を聞く力、大勢の前でいろいろ発言する力。
- ③奈良をよくする取組や他の学校との協働した取組。
- ④就職後も自分の意見を発信したり、自分から率先して発表したりする力を身に付けていきたい。

バルツァ・ゴードルの方々に私たちの音楽を聴いていただけたことをとても嬉しく思っています。とても近くで演奏させていただき、音楽を聴いて楽しんでくださっていることを肌で感じる事ができたのは貴重な体験でした。音楽を聴いてくださる人を想像して練習を重ねていくことがとても大切だと強く思いました。今後の練習に生かしていきたいです。また、地域の方々に向けた演奏の機会も今後増やしていきたいと思っています。

幼児教育に携わることを希望している生徒たちが、夏に図書館での読み聞かせタイムの見学に行き、自分たちもやりたいと考え、手作り絵本を持って、近隣の幼稚園を訪問、幼児に対する接し方等に理解が深まった。3年時の実習や将来に活かしたい。

地域の乳幼児や高齢者の方々と接する機会により、相手の気持ちや状況に合わせた対応や言葉がけができるようになった。

私は「生活文化の伝承B」という科目を受講しており、地域のまつりに興味があったので「順慶まつり」に参加しました。「生活文化の伝承B」では「筒井順慶」に関わる歴史、「順慶まつり」がはじまったきっかけについて知ることができました。「順慶まつり」に参加してよかったことは、地域の方や同じ学校から参加した人と一体になって、助け合いながらまつりを盛り上げることができたことです。今後、地域の行事に積極的に参加したいと思っています。

- ①人文探究コースのクラス代表として選んでもらった。
- ②コミュニケーション力、問題を自分たちで解決する力、プレゼンテーション力（PR力）
- ③社会貢献に継る活動（こども食堂の参加など）
- ④後輩の役に立つ（アドバイス）や社会に出た時の人との関わり

校内で協力して地域の方々とコミュニケーションを取り入れたことで達成感と自信がついた。この経験を活かして次の地域の方との交流を計画したい。

授業としての取組であることが参画の理由。普段関わらない世代とのコミュニケーションを意識した。同じような取組を継続し、できなかった点を振り返り改善させ、より充実させていく。

担任の先生から案内され、例年クラスのほとんどの生徒が参加していると聞き、参加しました。清掃中に地域の方が車をとめ、私たちに「ありがとう」と言ってくださいました。微力ながら地域のために貢献していることへの喜びを感じました。また、他のクラスの友人は近隣の道路の清掃を担当し、多くのゴミを拾ったらしいのですが、私が担当した通学路や駅周辺はゴミがほとんどなく、地域のどなたかが常日頃清掃してくださっているのかもしれないことに気がつきました。自分自身もゴミを道端に捨てないことはもちろんのこと、落ちていたゴミを拾う習慣をつけようという意識が芽生えました。今後も地域のため何かできることがあれば積極的に参加したいです。

小学生と触れ合いたかったし、昨年に引き続きリース作りに参加しました。参加してみて、子どもとの関わり方やことばの使い方、笑顔の大切さを学びました。この経験は将来の夢である看護師になっても生かせると思います。子どもたちはとてもかわいかったし、参加して楽しかったです。

実験・研究をしたものづくりを小学生に伝えることで、学習内容を再確認することができました。また、わかりやすく説明する力や表現力、コミュニケーション力を身につけることができました。

研究発表会の質疑応答の場面で難しい質問もあったが、論理的に説明しようと努力した点で成長でき、質問に柔軟に対応する力を身に付けることができた。

私はかざぐるまで、車椅子の方のレクリエーションの補助を担当しました。車椅子を押すというのは慣れていたのですが、正直高をくくっていたのですが、肝心のレクリエーションの補助については、どうすればよいかと悩んでしまい、補助といえるような補助はあまりできませんでした。私は改めて人に寄り添って行動する大変さと、寄り添っていてくれる人への感謝を覚えました。もし、次があるのなら、今回の反省を生かし、人に寄り添った行動を考えて、実行したいです。

小学生に実験の仕方などを教えるを通して、伝え方の工夫や話すスピードなどについて考えるようになりました。教員を志望しているので、この経験を活かしていきたいです。

園児と触れ合う体験をしたとき、最初は自分自身が緊張してしまい、子どもたちの緊張をほぐすことができませんでした。しかし、交流を進める中で自分の緊張がほぐれてきて、ペアになった園児の表情がわかるようになりました。この体験から、子どもの中には人見知りで自分から話しかけられない、話すのが難しいなど、様々な子どもたちがいて、そのような子どもたちにどのように接したり話しかけたりすれば緊張をほぐしてあげられるかを学ぶことができました。特に、何かできたときは褒めてあげることが大切だと思いました。また、子どもたちの笑顔を見てみると、関わり大切さをとても感じました。反省点は、もう少し園児の視点になって声かけをしていくべきだということです。園児の視線に合わせること、会話の内容を園児の興味を引くものにすることなど、次回に向けて考えていきます。
第2学年で、班ごとに歴史や文化に関する研究テーマを設定し課題研究をスタートさせ、最終目標は第3学年12月のユネスコフォーラムでの発表だった。班の中で意見・考えが対立したり、考察が停滞したりする場面もあったが、それらを調整し、班としての意思をまとめる取組を頑張った。困難な場面に出くわしても、思考を止めない心意気や考える力が身に付いたと思う。また、話し合いを通して仲間と深く関わっていくことで自分自身も成長することができた。大学では文学・歴史を学ぶ予定だが、相手の意見を尊重し、自分の意見を的確に伝える力をさらに伸ばしていきたい。私たちの班は「能と戦国武将」について発表した。狂言との関わりやルーツとなる中国の芸能にも興味を持った。様々な芸能によって異なる見せ方の工夫や、現代の演劇に及ぼされた影響についても知りたいと思っている。
①楽しそうだと感じ、当該授業を履修した。 ②学校内外の他者と協力することの重要性。 ③地域のイベントに積極的に参加したい。 ④参加する活動について、事前に知識を身につけて活躍できるようにしたい。
しおり作りが思っていたよりも楽しく取り組みました。また、図書館に持っていたときに喜んで頂きやりがいを感じました。
実際にこどもと触れあい、充実した学習が出来た。
地域の人や他の家の方に自分の作品を観てもらって「とても綺麗な作品だね」と言ってもらいとても嬉しかったです。今後は、大学に進学するので、この事業で得た自信を活かしていきたいです。
地域の方に学校を知ってもらう取組を通して、自分のコミュニケーション能力が高まった。
ヘルマンハーブの演奏会を実施。来校していただいた方々と音楽活動を通じて音楽に親しみ、卒業後の生活を豊かにする余暇のあり方に活かしている。
地域の人と一緒にしごとの授業ができて良かったです。また、一緒に活動したいです。
地域ボランティアスタッフさんが、いろいろと話しかけてくださって嬉しかったです。卒業後の事業所では、緊張せず自分から話しかけたいです。
地域の掃除ができてよかった。またしてみたい。
清掃活動に参加し、目に見えて綺麗になることがうれしかったし、お礼を言ってもらうことができて、頑張った甲斐があった。次回以降も積極的に頑張りたい。
手を頑張って動かしてプランターにお花を植えました。みんなに「きれいね」と言ってもらえたら嬉しいです。みんなが喜んでもらえることがしたいです。
学校で学んだことを生かして、周りの人に褒められるような活動がしたい。
はじめは緊張したけどがんばることができた。

- ※① なぜこの取組に参加、参画したのか。（理由・きっかけ）
 ② 取組を通して、どのような力や意識などが身に付いたか。
 ③ 今後どのような取組をしてみたいか。
 ④ この取組で得た経験や力を、今後どのように活かしていくか。